

様式1		令和6年度 清瀬市立清瀬第十小学校		学校評価計画	
学校の教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
・豊かに感じ、よく考える子ども		・友達の良さがわかり、助け合う子ども		・心身をきたえ、明るく生きていく子ども	
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】・児童にとって明るく、楽しく、安心して過ごせる学校		・保護者・地域に信頼される学校			
【目指す児童・生徒像】互いに認め合い、支え合い、高め合う児童					
【目指す教師像】児童に達成感を味わわせ、確かな学力・自尊感情を育ませることのできる教師					
前年度までの学校経営上の成果と課題					
【成果】 豊かな心の育成、本校の特色の柱では、取組指標・成果指標それぞれ全ての項目が「4」となっており、学校関係者評価でも信頼と期待された御意見をいただいている。また、健やかな体の育成の体育指導の工夫改善も取組指標・成果指標それぞれの項目が「4」となっている。児童の心と体の健全な発達をすすめることができた。					
【課題】 特別支援教育の充実が課題である。通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善、特別支援学級と通常学級との交流学習の充実を図り、特別支援学級の理解促進を行っていく必要がある。					
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	基礎的な知識・技能の定着と情報活用能力の育成を図る。	協働的問題解決型学習を取り入れた授業を行い、情報活用能力を育成する。	総合的な学習の時間や生活科で、5つのプロセスを通した授業を行い、情報活用能力を育成する。	4 全クラスで実施	4 教員による評価で、指導目標達成の児童の割合が80%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 教員による評価で、指導目標達成の児童の割合が70%以上
				2 14学級以上16学級未満で実施	2 教員による評価で、指導目標達成の児童の割合が65%以上
				1 14学級未満で実施	1 教員による評価で、指導目標達成の児童の割合が65%未満
	基礎的な知識・技能の定着を図る。	基礎的な知識・技能の定着を図る。	漢字・計算ドリルやドリルパーク、東京ベーシックドリルを活用して、国語・算数の基礎を定着させる。	4 全クラスで実施	4 単元テストで到達率80%以上の児童の割合が80%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 単元テストで到達率80%以上の児童の割合が70%以上
				2 14学級以上16学級未満で実施	2 単元テストで到達率80%以上の児童の割合が60%以上
				1 14学級未満で実施	1 単元テストで到達率80%以上の児童の割合が60%未満
豊かな心の育成	児童に自他の命を大切にすることの大切にする心情や思いやりの心を育む。	互いの良さを理解し、すすんで助け合う児童を育成する。	全学年輪番制であいさつ運動に取り組んだり、あいさつする意味や価値を考えさせたりして、すすんであいさつする態度を養う。	4 全クラスで実施	4 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が85%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が75%以上
				2 14学級以上16学級未満で実施	2 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%以上
				1 14学級未満で実施	1 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%未満
	いじめの未然防止、早期発見、解決、再発防止を行う。	学級指導・道徳の授業を通じていじめの未然防止教育を行う。児童の振り返りアンケート、ふれあいアンケートを定期的に実施し、児童が相談しやすい体制を整える。	学級担任の自己評価で肯定的な回答が20人全員	4 学級担任の自己評価で肯定的な回答が20人全員	4 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が85%以上
				3 学級担任の自己評価で肯定的な回答が16人以上20人未満	3 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が75%以上
				2 学級担任の自己評価で肯定的な回答が14人以上16人未満	2 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%以上
				1 学級担任の自己評価で肯定的な回答が14人未満	1 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%未満
健やかな体の育成	児童ががすすんで運動に取り組む態度を育成し、体力の向上を図る。	児童が自己の運動能力に適した目標を設定し、目標に向かって体力の向上を図る。	体育の学習で、各種目の個人目標を設定させる。授業ごとに振り返りを行い、目標の達成状況を自己理解させる。	4 全クラスで実施	4 体力テストの総合評価が昨年度に比べ向上又は維持が90%以上
				3 16学級以上18学級未満で実施	3 体力テストの総合評価が昨年度に比べ向上又は維持が80%以上
				2 14学級以上16学級未満で実施	2 体力テストの総合評価が昨年度に比べ向上又は維持が70%以上
				1 14学級未満で実施	1 体力テストの総合評価が昨年度に比べ向上又は維持が70%未満
	児童が運動に親しむ態度を育む。	体力テスト活用授業や、各学期に1回体力向上旬間を実施する。めあてカードを使用し、「できた」という実感をもたせることによって、運動する楽しさを実感できるようにする。	教職員の自己評価で肯定的な回答が19人(全員 養護教諭・体育以外の専科を除く)	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が19人(全員 養護教諭・体育以外の専科を除く)	4 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が85%以上
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が16人以上19人未満	3 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が75%以上
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が14人以上16人未満	2 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%以上
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が14人未満	1 アンケートによる児童の取組への肯定的評価が65%未満
特別支援教育の充実	個に応じた指導・支援を充実させるとともに、特別支援教育についての理解促進を図る。	教員や児童、保護者への特別支援学級に関する理解促進を図る。	通常学級との共同及び交流学習を可能な限り行い、児童が互いのよさや違いを認め合えるようにする。児童や保護者向けのリーフレットを発行し、周知する。	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が28人(全員)	4 アンケートによる児童・保護者の肯定的評価が85%以上
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が22人以上27人未満	3 アンケートによる児童・保護者の肯定的評価が75%以上
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が18人以上22人未満	2 アンケートによる児童・保護者の肯定的評価が65%以上
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が18人未満	1 アンケートによる児童・保護者の肯定的評価が65%未満
	特別支援教育委員会を中心に、教育的ニーズが必要な児童への指導・支援体制を充実する。	特別支援教育委員会を中心に、教職員間の連携を強める。関係諸機関と連携しながら、支援を必要とする児童や保護者に対する相談体制を充実する。	教職員の自己評価で肯定的な回答が28人(全員)	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が28人(全員)	4 アンケートによる保護者の肯定的評価が85%以上
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が22人以上27人未満	3 アンケートによる保護者の肯定的評価が75%以上
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が18人以上22人未満	2 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%以上
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が18人未満	1 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%未満
本校の特色	外部人材を活用した教育を充実させ、社会に開かれた教育活動を推進する。	学校支援本部や地域住民、専門家の教育力を取り入れ、学んだことを社会の中で実践する力を育む。	蚤学習、赤ちゃんのチカラプロジェクト、認知症サポーター養成講座、松竹梅＋科学の力向上プロジェクト、町探検、花のチカラプロジェクト、農業体験等、体験的な活動を実施する。	4 体験的な活動を学期に2、3回実施	4 アンケートによる保護者の肯定的評価が85%以上
				3 体験的な活動を学期に1回実施	3 アンケートによる保護者の肯定的評価が75%以上
				2 体験的な活動を年2回以上実施	2 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%以上
				1 体験的な活動を年1回実施	1 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%未満
	学校の教育目標や教育活動についての情報を家庭・地域と共有し、連携して児童を育てる。	ホームページで各学年の教育活動に関する情報を発信する。	ホームページで各学年の教育活動に関する情報を発信する。	4 月に3回以上教育活動に関する情報をホームページで発信した。	4 アンケートによる保護者の肯定的評価が85%以上
				3 月に2回教育活動に関する情報をホームページで発信した。	3 アンケートによる保護者の肯定的評価が75%以上
				2 月に1回教育活動に関する情報をホームページで発信した。	2 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%以上
				1 教育活動に関する情報をホームページで発信しなかった。	1 アンケートによる保護者の肯定的評価が65%未満